

*** 大温室入口ロビーで見頃の植物情報を掲示しています**

ナンヨウザクラ

(トウダイグサ科)

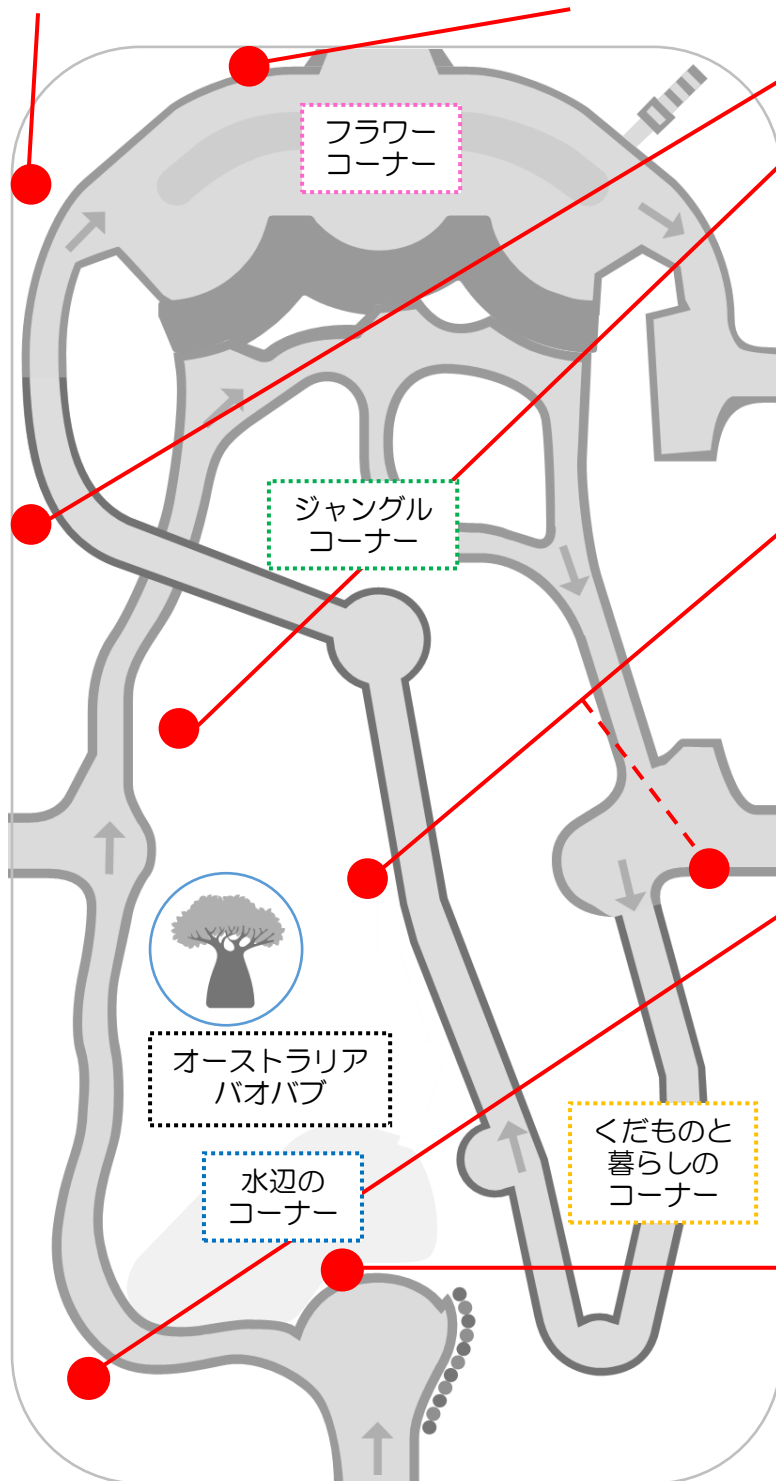
西インド諸島原産の常緑低木。葉の形が提琴(バイオリン)に似ていることから、テイキンザクラとも呼ばれる。花卉は5枚でサクラと同じですが、サクラのなかま(バラ科)ではありません。

オオバナソシンカ (マメ科)

中国南部原産の常緑小高木。葉の形が羊のひづめに似ていることから、羊蹄木(ヨウテイボク)とも呼ばれる。花には芳香がある。香港でよく見られる植物で、ホンコンオーキッドとして、区の旗になるなど親しまれています。

バルサ (パンヤ科)

熱帯アメリカ原産の常緑高木。材が非常に軽く、水に浮く木として有名。模型などに使われる。パイオニア植物でもあり、光を受けるためにキリのような大きな葉をつけます。ちなみに、足元のデッキ材はイペーでできており、水に沈みます。



ヤエヤマヤシ (ヤシ科)

八重山諸島(石垣島・西表島)に固有のヤシで1属1種。属名は Satakentia、ヤシの研究家でもあったサタケ(広島 of 精米機メーカー)二代目社長の佐竹利彦氏への献名。東広島のサタケ本社ビルにはヤシの温室もあります。

レンブ (フトモモ科)

マレー半島原産。果実は生食でき、シャリシャリとしたスポンジのような食感が特徴。味はリンゴとナシの間。同属にミズレンブがあり、洋ナシ型で光沢のある果実がついています。フトモモの仲間、花が咲くと長い雄しべが吹き出すように広がります。

ハマベブドウ (タデ科)

熱帯アメリカ・西インド諸島原産。英名はシーグレープ、丸みを帯びた葉が特徴的で、観葉植物として流通している。新葉はピンク色の葉脈が目立つ。ブドウのような紫色の果実がつき、ジャムなどに加工して食べられる。雌雄異株で白い花をつける。

サガリバナ (サガリバナ科)

サワフジとも呼ばれ、夏の夜間開園の目玉となる植物です。まだ5月ですが、既に咲き始めています。夜に咲く一日花ですが、午前中であれば前日の花を觀賞できます。